

登録団体紹介

■ PCボランティア 「天手古舞」

スマホ、パソコンが日常生活に入り込み、その取り扱いに高齢者は難儀をしています。そんな中、栃木県シルバー大学校でパソコン授業の講師を務めた34期生の岩崎代表が、卒業後の同窓会真岡支部会員の為に、ボランティアでパソコン教室を開校して早3年を迎えています。

「ワード初級」「ワード中級」「エクセル」「ウィンドウズ10」の4コースにそれぞれ十数名の仲間が脳トレを兼ねて月1回の授業を和気藹々と受けています。

毎回各コースの講義では、講師が「天手古舞(てんでこまい)」をしながらも、丁寧に理解し易い授業を進めています。

皆さんも機会がありましたら是非「天手古舞」を覗きに来て見ませんか。パソコンでお困りの方はご相談ください。お役に立てるかどうかわかりませんが歓迎致します。

代表：岩崎 英昭



■ トランジションタウン栃の木

トランジションタウン栃の木は、2015年の12月に五月女(旧姓:高木)尚子さんと小栗秀夫さんのふたりが立ち上げた市民活動団体です。その後、パンフレットの整備の際に栃木県内の日光、鹿沼、小山、宇都宮、茂木の各地の仲間を各地の事務局として、掲載しました。立ち上げ当初は、活発に様々なイベントを開催していましたが、最近では、コロナもあり、活動を自粛気味になっています。

トランジションタウンという運動は、もともとイギリスのトットネスではじまった市民運動で、当時(2005年)のピークオイル問題を政治や企業任せにせず、市民が自分たちの力で解決しようとはじまりました。トランジションタウン栃の木では、現在、各地の事務局がそれぞれ活動しています。それぞれの事務局のテーマは、エコヴィレッジ、自給自足による地球1個分の暮らし、パーマカルチャー、竹細工による里山資本主義、地域通貨、脱原発、フェアトレード、引きこもり支援などです。

わたしが担当している宇都宮では、地域通貨を活動テーマとしていて、地域通貨で友愛に基づく経済を社会に広める活動をしています。友愛という言葉は、キリスト教世界で使われた言葉ですが、わたしは、論語の忠恕も友愛と同じ概念と考えています。

代表：佐藤 順



■ アトリエ日和

ガラスに魅せられた仲間が集って、スタンドグラスやキルンワークなどで、ガラスのもののづくりを楽しんでいます。

キルンワークとは、電気炉の仕事という意味です。造形したものを電気炉に入れてから溶かすので、熱く溶けたガラスを直接扱うわけではありません。フェーシングなどの技法があり、安全で落ち着いた制作ができます。県内では数少ない経験を学べる場で、自分がやりたいものを自由に個性をいかした作品作りをしています。

これらの作品は3年に1回開催する「アトリエ日和の仲間たち展」という展示会で発表しています。来年が11回目の開催予定です。

また、今年の8月には障がい者施設で「ガラスでフェーシングのお皿を作ろう」という体験学習も行いました。和気あいあいとごやかな雰囲気教室です。ご見学もお気軽にお越しください。

代表：鯨 敏枝



真岡市市民活動推進センター コラボレもおか

〒321-4507
栃木県真岡市石島893-15 真岡市二宮コミュニティセンター2F
TEL: 0285-81-5522
FAX: 0285-81-5558
e-mail: info@collabo-moka.net
URL: http://www.collabo-moka.net/
【開館時間】火～金: 9:00～21:00
(土・日は18:00まで)
【休館日】毎週月曜日・祝日
・年末年始(12/29～1/3)
※その他イベント・施設管理の関係で臨時に休館になる場合があります。



コラボレもおか
イメージキャラクター
コラちゃん(左)と
ポレくん(右)



もおかの人と人をつなぐ情報誌

コラボ!

第51号
2021.10

真岡市市民活動推進センター コラボレもおか 【運営団体】特定非営利活動法人ま・わ・た



近年、新聞やニュースで「こども食堂」「地域食堂」といった言葉がよく聞かれます。こどもが一人でも行ける無料あるいは低額の食堂として、平成24年ごろから次第に全国に広まりました。令和2年には5,086カ所で開催されているようです(①)。役割としては「地域交流拠点」と「貧困対策」が挙げられますが、実際にはもっと多様な役割として地域に根付いてきています。

栃木県内でもこれらの役割を中心に据え、大小さまざまに30以上の取り組みが行われているようです(②) 真岡市においては、「作りたい」「必要だね」といった声が聞こえる中、具体的な動きには繋がっていませんでした。しかし、令和3年7月に2カ所のこども食堂が立ち上がりました。今回は、その2つのこども食堂について、活動にかける想いを聞いてきました。



そらいろポケット「コアラ食堂」

今年から真岡市内で活動を始めた「NPO法人そらいろコアラ」が主催するこども食堂は、7月から毎月1回第4日曜日に開催しています。担当する管理栄養士の榎間晃子（ひつまあきこ）さんは、「何を食べるかで体は変わります。コアラ食堂が食への関心を持つきっかけのひとつになれば嬉しい」とのことです。そのため、材料表付きのメニューをつけたりと工夫をされています。

調理に使う食材は「JAはが野」や「パンとクッキーの店SHIBANO」、ボランティアさんからの寄付も使用し、毎回15～20食を作られています。現在は、コロナ禍のため、みんなで飲食する場所にはできず、食事をお持ち帰りしてもらっているとのこと。写真1) バランスの取れたとてもおいしそうなお弁当でした。

今後の目標としては「コロナ禍が過ぎたら、一緒に会食したり、食べに来た子に1つお手伝いをしてもらったりと、参加型の活動にしていきたい。」とおっしゃっていました。そらいろコアラでは、このほかにもこどもや妊産婦さんの居場所の運営、必要なお家庭への物資のお届け、妊娠や子育ての無料のLINE相談も行っているとのこと。そらいろポケット「コアラ食堂」の活動から、それらの活動に繋げ、「ありがとうの循環」を作りたいとおっしゃっていました。

LINE公式アカウント※もあるとのことなので、ぜひ繋がってみてはいかがでしょうか。

※公式アカウント「そらいろポケット」(LINE ID: @878ejivi)



写真1) コアラ食堂のおもちかえりセット



写真2) まめっこ食堂のお弁当

そらまめ食堂「まめっこ食堂」

こちら今年7・8月に開かれた子ども食堂です。「NPO法人ま・わ・た」が運営するそらまめ食堂の皆さんが中心となって開催されました。店長の成田雪子（なりたゆきこ）さんにお話を聞くと、「やると決めたとなん、皆さんからの食材提供のお声がけをいただきました。（こども食堂が開かれるのを）待ってたのかなあという感じを受けました」。事実、各回のほとんどの食材を様々な人たちの寄付によってまかなえたそうです。

開催のきっかけのひとつは、今年から運営主体が変わったこと。現在のNPO法人ま・わ・たはフードバンク事業も行っており、それならという気持ちになったそうです。さらに、スタッフの皆さんと話し合った結果、協力的だったことも後押しされて、イベントに合わせてこどもたちへ無料のお弁当を渡す「まめっこ食堂」が完成しました。（写真2）計3回、各回20個限定で開催し、コロナ禍の逆風の中で、無事終了できたとのこと。

次回開催は未定とのことですが、「やってみたら考えさせられたことも多いです。自分たちの目指す子ども食堂をみんなで考えてみて、できれば月1回くらいのペースで実施してみたいと思います。」とおっしゃっていました。

インタビューを通して

2カ所のこども食堂のお話を聞いて、求められていたものがやっとできたという印象を受けました。それは、「やりたい」と思っていた人たちと「できないかな」と期待していた人たちが結びついた瞬間でした。

今年の4月、真岡市では「もおかっ子をみんなで育てよう条例」が制定されました。「『だれもが“わくわく”するまち 真岡』で、もっと子育てを楽しく、快適に、そしてより良い子育てができる環境づくりを社会全体で取り組んでいく(③)」ための条例ができた年に、こども食堂が2つも芽吹いたのは偶然ではないのでしょうか。

これからの「もおかっ子」を取り巻く環境がどう変わっていくか、とても楽しみにになりました。

(取材：長野 大輔)

参考文献

- ①NPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえ「こども食堂全国箇所数調査2020」、
(<https://musubie.org/news/2898/>、2021年8月28日閲覧)
- ②とちぎボランティアNPOセンター「ぼ・ぼ・ら
「特集・ひとりにさせない！子ども食堂の今」『ぼ・ぼ・らmagazine』、2019年8月号 (vol28)、pp.1-2
- ③真岡市「もおかっ子をみんなで育てよう条例」、
(<https://www.city.moka.lg.jp/toppage/soshiki/kodomokatei/1/1/11951.html>、2021年9月7日閲覧)

スキルアップ講座 「ココが変わった！NPO法ナゼナニ相談会」

6/24 木 7/1 木

今年度のスキルアップ講座はコロナ禍の情勢に合わせ開催をしています。本講座でも現地開催とオンライン開催の2回に分けて開催しました。

本講座では、当広報誌で以前(コラボ!49号)に特集した、令和3年6月9日施行のNPO法改正について、登録団体や市内NPO法人の皆さんに、さらに理解を深めてもらうと開催しました。

現地・オンライン共に、まずは解説を聞いていただいた後、参加した方から難しかった点や掘り下げて聞いてみたい点等について質疑応答を行いました。特に注意が必要な法自体の説明など詳細を確認しながら丁寧に進行し、理解が深められた様子でした。

講座を通して様々な意見交換が行われ、とても有意義な話し合いができました。当センターでは、NPO法に関する相談も随時行っています。センターまでお気軽にお問い合わせください。(参加者2名)



第78回こらぼ茶話 「新型コロナウイルス感染症防止～薬の正しい知識～」

6/30 水

今回のこらぼ茶話は薬剤師の青柳 勝氏を講師に、感染防止に役立つ知識を教えてくださいました。

そもそも薬とはなにか?といった話から基本となる手の洗い方・アルコール消毒の仕方、さらには滅菌・消毒・殺菌・静菌・除菌・抗菌の違いなど普段聞けない深い話まで丁寧に教えていただきました。また質疑応答ではコロナワクチンについての鋭い質問が投げかけられるなど、参加者の関心の高さもうかがえました。

コロナ禍の終わりはなかなか見えてきません。だからこそ我々ひとりひとりが感染防止の意識を高く持ち、「うつらないようにではなく、うつさないように」の気持ちで取り組むことが大切なのだと気づかされた今回の茶話でした。(参加者13名)



コラボ共催講座 「ひろめよう！シトラスリボンプロジェクト」

7/27 火

真岡市公民館西分館にて「にじいろもおか」の皆さんと共催講座を開催しました。「にじいろもおか」はコロナ禍での差別などをなくすため始まった「シトラスリボンプロジェクト」の普及活動を行っています。

今回の講座では、シトラスリボンを実際に作ってもらいながら、そこに込められた意味をお伝えしました。参加された皆さんは、初めは手間取りつつも、最後にはたくさんリボンを作り上げてくれました。またそこに込められた意味についても理解を深めてくれたようでした。

今回の活動をもとに地域での活動をさらに広げ、今後もシトラスリボンに込められた想いを広めていってほしいと思います。(参加者6名)



スキルアップ講座 「スマホで動画撮影を楽しもう」

7/31 土

今年度第2回目となるスキルアップ講座は、講師に宇都宮ケーブルテレビ株式会社より島 義弘氏をお招きし、スマホを使って動画の撮影を行う時のポイントを解説していただきました。

スマートフォンが普及し、少し前からは想像出来なくらい動画撮影が身近になりました。市民活動分野でもSNSやYouTubeに動画投稿して活動をPRしたり、コロナ禍で中止になったイベントの代わりにしている団体も見受けられます。

そこで今回の講座では映像のプロである講師からスマートフォン撮影のコツや注意点を実際に撮影している様子をスクリーンに投影するなどしながら、わかりやすく解説していただきました。

普段撮影する時に気にしていなかった撮影環境やスマートフォンの持ち方、被写体の色味と明るさの関係など時にはユーモアを交えながら説明していただき、参加者の皆さんも興味深そうに傾く場面が多く見られる講座でした。

ぜひ、今回の講座で身につけた技術を基に活動の幅を広げていただき、コロナ禍で重なりがちな活動の一助になればと思います。(参加者5名)

